

# シラチャ校だより

泰日協会学校  
シラチャ校  
2017. 12. 1



## 敬う心

泰日協会学校シラチャ校 校長 久光靖男

すがすがしい風が吹き抜ける季節になりました。いよいよ12月です。

先の運動会では集計で1042人来校者がいたということで、シラチャ校の保護者のほとんどの方においでいただいたこととなります。紅白それぞれ応援や演技、競技に対して精一杯取り組む姿が随所に見られたこと、皆様の応援のおかげと感謝いたします。ご協力ありがとうございました。

さて、学校行事を振り返ると中学部で11月3日に「職業人に聞く会」が実施されました。講師にOHAYOシラチャ編集長の嶺田雅博さん（編集者、デザイナー）とフューチャーポイント代表の目堅篤彦さん（通訳、翻訳）のお二人をお迎えし中学1・2年生対象にお話いただきました。シラチャで事業を立ち上げ経営されているお二人からの経験を元にしたお話は、将来の職業について考えるきっかけになりました。また11月24日（金）は中学2年生を対象に職場体験学習が行われました。本年度は体験先としてオイスカ幼稚園、AEON、住友ゴム、Hotel Citadines、リコー、サミティベート病院の6カ所でした。それぞれ5名程度の班で1日実習を行わせていただきました。実習を終えた生徒の充実した表情が印象的でした。また大瀬戸千嶋の音楽鑑賞会を実施しました。音楽を演奏すること楽しさと仕事としてのやりがいについてお話も演奏とあわせて聞かせていただきました。演奏を楽しむだけでなく、お二人の生き方を学ぶ機会にもなりました。

キャリア教育という視点で将来を考えさせるとき、「尊敬する人はだれですか」という質問をすることがあります。尊敬するということは、「憧れ」（自分もそうになりたい）という事とはニアンスが少し違います。「尊敬する」というのはその価値を認める人がいなければ成り立ちません。他の人が「あの人はすごい」といっても自分が思わなければ価値はないに等しいのです。尊敬する心、敬う心は、一人ひとり違います。それは興味関心や性格と同じように生まれつき持ち合わせて



いるもののように思います。自分がどこに魅かれ、何に価値を認めるかという点で考えると必ずしも年上の方が対象とは限りません。子供であろうと若い人であろうと年配の方であろうとその人の中に「敬うべきもの」を見つけることはできます。全人格でなくともその人の一部ということもあるでしょう。そう考えよく見ると敬われる人は身近なところにいます。

自分がなれない「あこがれの人」に嫉妬するのではなく身近なところにいる「尊敬する人」をめざして努力する生き方を続けていきたいものです。そういった気持ちが広がっていくとき、本校のキャリア教育はより身近なものになっていくと考えています。

# 「からをやぶれ」！！シラチャ校446人の一致団結！

今年の運動会スローガン「Break the shell～からをやぶれ～一致団結し、つなげ446人の熱き魂」は、当日の天候にも恵まれ、無事達成することができました。このスローガンは、運動会実行委員会（小学部委員会委員長、中学部中央委員会代表3名）により作成されました。特に、「一致団結」「446人」という言葉には、「小学部と中学部が一緒になって作る運動会」という意味が詰まっています。

9月に行われたシラチャ祭、たくさんの保護者の皆様に足を運んでいただき、第一回目として無事終わることができました。本当にありがとうございました。当日、小学部と中学部をつなぐ「引き継ぎの会」では、小学部から中学部へバトンを渡し、午後の部がんばってください、という小学部の気持ちと、そして、午前中お疲れ様、午後はまかせてください、という中学部の気持ちと、体育館で見ることができました。改めて、小中一貫校のよさが見られた瞬間でした。シラチャ祭に始まったシラチャ校一致団結した取り組みは、この運動会でさらに深くなりました。特に、全校で取り組んだ応援合戦。小学部1年生から中学部3年生までが縦のつながりを持ち、応援団が必死に考えた応援歌を白組、赤組が必死になって覚えました。運動会が近づくにつれ、両組の声の大きさは学校中をふるわせるくらい大きなものになっていました。中には、応援団が声を出すときに腰を下げ、体をのけぞらせて行っている中学部の生徒の動作を、小学部1年生の児童が必死にまねようとがんばる姿も見られました。最初は小さい声で、なんとなく恥ずかしかった子も、自分の殻を破り、友達と最高の運動会を作ろうと頑張り、そして励まし合ってきました。徒競走、全員リレーでは、特に緊張した顔が見られました。タイにあるシラチャ校では、日本のように市町村が主催する陸上記録会や部活動での市大会、県大会などができません。緊張をしたり、自分の練習の成果を発揮したりするという機会は決して多いわけではありません。先に挙げたシラチャ祭、水泳記録会、そして運動会での経験は、心をたくましくし、さらに成長させることにつながったと感じました。



さて、「からをやぶる」というテーマで446人が熱い魂をぶつけ合った運動会が終わった今でも、「からをやぶる」ということは日常的に子供たちはやっています。休み時間の中で、授業の中で、友達と話している中で、様々な場面で子供たちはチャレンジをしています。昨日の自分より今日の自分、今日の自分より明日の自分と、学校テーマでもある「日々チャレンジアップ」を目標に日々成長しています。しかし、その成長は、保護者の皆様のご支援があつてのことです。毎日のように使う体操着の洗濯、水分補給のためのスポーツ飲料のご用意、愛情こもったお弁当など様々なところで子供たちのためにサポートをしてくださっているからこそだと思います。これからもシラチャ校職員一同、子供達のチャレンジをサポートし、シラチャ校全体で「Break the shell～からをやぶる～」をしてきたいと思っています。今後とも保護者の皆様のご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【文責：金子 領太】

## 冬の風物詩（コムローイ Khom Loi ）



小学部の理科クラブでは、タイのコムローイ祭りに打ち上げられる伝統的な天灯である熱気球（ランタン）の製作に挑んでいます。

コムローイは仏教のお祭りで、ブッタへの敬意を込めたランタンに火を灯し、空に打ち上げられます。そもそも「コム」とはタイ語で「光」という意味、「ローイ」は「浮く」という意味があるそうです。昔、熱気球は通信手段と使用されていたそうですが、今では「ブッタへの

感謝の気持ちを届ける手段」としての役割を担っているのですね。

熱気球の仕組みは、温められた空気の体積が膨張し、密度が小さくなったことで軽くなった物体が上昇する現象で、4年生の発展教材でもあります。今年こそはと意気込んでいる理科部員の願いが届くよう、是非とも打ち上げを成功させたいと思います。

（文責＝小学部 理科担当 佐藤幸平）



## 世界中のサンタクロース



みなさんは12月といえば何を思い浮かべますか？きっと「クリスマス！」と答える人が多いのではないのでしょうか。

クリスマスといえばサンタクロース。クリスマスの前の晩に、たくさんのプレゼントを袋に詰めてよい子のところへプレゼントを持ってきてくれるのが、サンタクロ



ースですよね。みなさんがサンタクロースと聞いて思い浮かべるのは赤い服を着た白いひげの大きなプレゼントの袋をもっている優しいおじいさんだと思います。でも、このサンタさんはアメリカのサンタクロースで、実は世界中には色々なサンタクロースがいると言われています。今回は、世界中のサンタクロースを少し紹介したいと思います。

オランダのサンタクロースは、やせた男の人で伝統的な白い司祭のローブを着ていて、赤い司教冠を被ってつえを持っています。サンタクロースはお手伝いのブラックピーターをつれていて白い馬に乗ってやってきて、ブラックピーターが煙突をくぐってプレゼントを届けます。イタリアのサンタクロースは、魔女のような格好をした優しいおばあさんで、黒いショールをまといプレゼントの入ったカバンを持って、ほうきにまたがって空を飛ぶそうです。おばあさんは煙突から家の中に入り、よい子にはプレゼントを置いていき、悪い子には石炭か灰を置いていくそうです。国によってサンタクロースに違いがあるなんておもしろいですね。世界中には他にも色々なサンタクロースがいるのでぜひ調べてみてくださいね。

（文責：山田 江里子）